

名誉町民

泉
重千代
氏



- ・慶応元年（1866）伊仙町阿三に生まれる
- ・昭和 51 年（1976）長寿日本一となる
- ・昭和 51 年（1976）名誉町民に
- ・昭和 54 年（1979）114 歳で長寿世界一
- ・昭和 61 年（1986）2 月、120 歳 237 日で死去

泉
芳朗
氏



- ・明治 38 年（1905）伊仙町面縄に生まれる
- ・昭和 26 年（1951）奄美大島日本復帰協議会議長に就任
- ・昭和 28 年（1953）12 月 25 日奄美群島日本に復帰
- ・昭和 34 年（1959）54 歳にて死去
- ・平成 9 年（1997）名誉町民に

本郷
かまと
氏



- ・明治 20 年（1887）伊仙町木之香に生まれる
- ・平成 11 年（1999）111 歳で長寿日本一
- ・平成 14 年（2002）114 歳で長寿世界一
- ・平成 14 年（2002）5 月、伊仙町へ里帰り
- ・平成 14 年（2002）名誉町民に
- ・平成 15 年（2003）10 月 31 日、116 歳で死去

叶
實統
氏



大島郡内市町村立学校の県立移管、農道溜池の拡充、中部伊仙用水路の開設着手など、伊仙町の産業振興基盤形成に貢献

- ・明治 23 年（1890）伊仙町伊仙に生まれる
- ・大正 4 年（1915）25 歳で伊仙村会議員に初当選
- ・昭和 2 年（1927）37 歳で県議会議員に初当選
- ・昭和 8 年（1933）43 歳で伊仙村長に初当選
- ・昭和 30 年（1955）8 月 20 日、65 歳で死去
- ・昭和 38 年（1963）役場前に頌徳記念碑建立
- ・平成 24 年（2012）名誉町民に

離島医療に貢献

徳田
虎雄
氏



- ・昭和 13 年（1938）徳之島町亀徳に生まれる
- ・昭和 50 年（1975）医療法人徳洲会を設立し次々と日本全国に病院を開設
- ・昭和 61 年（1986）徳之島町に徳之島徳洲会病院を開設
- ・平成 9 年（1997）伊仙町伊仙に伊仙クリニックを開設
- ・平成 24 年（2012）名誉町民に

伊仙町のシンボル

町章



昭和 37 年 1 月、町制施行時に制定。伊仙の「伊」の文字を図案化した円形に平和の意を表しています。町制と共に大きな羽ばたきと飛躍を表現しています。

(作成：関 昌弘 氏)

町花 (ハイビスカス)



昭和 57 年 7 月 1 日、町制施行 20 周年を期に町木と共に制定。

アオイ科フヨウ属の総称。一般にはブッソウゲを指すことが多く、ハワイのレイに使われる花としても有名です。

町木 (ガジュマル)



昭和 57 年 7 月 1 日、町制施行 20 周年を期に町花と共に制定。クワ科の常緑高木。ヨウジュ（榕樹）とも呼ばれ、枝から多数の気根が垂れ下がり、独特の景観を作り出します。町内の至る所に自生し、親しまれています。

町民憲章

私たちは、祖先を敬い、郷土を愛し、子孫に誇れる町づくりを目指して、ここに町民憲章を定めます。

- 一. 私たちは、あいさつを交わし、ことばをかけ合い、和やかな町をつくります。
- 一. 私たちは、きまりを守り、心と体をきたえ、明るい町をつくります。
- 一. 私たちは、自然を大切にし、花と緑を育て、美しい町をつくります。
- 一. 私たちは、知恵を出し合い、仕事に励み、豊かな町をつくります。

- 世界自然遺産 -

人類共通のかけがえのない財産として、将来の世代に引き継いでいくべき宝物、それが世界遺産です。世界遺産には自然遺産と文化遺産があり、自然遺産に登録されるためには4つの評価基準「自然景観」「地形・地質」「生態系」「生物多様性」のいずれかを満たす必要があります。現在、世界自然遺産候補地となっている「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」はこのうち「生態系」と「生物多様性」について基準を満たしているとされています。世界自然遺産に登録されるためには、前述の評価基準を満たしていることに加えて、その価値が損なわれないよう国としての保護措置がとられていなければなりません。そこで、これまでの海岸部を中心とした国定公園(県による管理)から、「生態系」「生物多様性」について特長的な陸域部分が追加され、国立公園(国による管理)として平成29年3月に指定を受けています。



貴重な動植物が育まれる豊かな森

- 希少な動植物たちが息づく、徳之島の豊かな生態系 -

徳之島には、絶滅危惧種を含む多種多様な動植物たちが生息しています。亜熱帯海洋性気候と琉球石灰岩土壌という稀有な環境の中、地球上で奄美大島と徳之島だけに生息する「アマミノクロウサギ」をはじめ、徳之島だけの固有種「トクノシマオビトカゲモドキ」や「イボイモリ」など、数多くの固有種や絶滅危惧種が確認されています。



アマミノクロウサギ



イボイモリ

- 集落で語り継がれる伝統文化 -

伊仙町内の各集落には、昔から受け継がれてきた伝統文化が今も脈々と受け継がれています。伊仙町の無形民俗文化財として登録されている目手久の「八月踊り」や上面縄集落で伝承されている「シヨンマイカ」など、集落行事や学校行事などでも欠かせないものとなっています。

犬田布地区では、豊年を祈願して集落内を唄いながら、イッサン棒と呼ばれる人形を持って各戸を回る「イッサンサン」をはじめ、各集落で行われている十五夜など、伝統行事を通して、季節の移ろいを感じることができます。西伊仙東集落では、戦前から「棒踊り」が継承されています。豊作祈願や家内繁栄、無病息災を願い、軽快な掛け声と共に勇壮な立ち振る舞いで青竹を集団で打ち合う光景は、見る者を魅了します。伝統文化の継承は、集落の団結と住民の交流を通じた絆を深める役割を果たしています。

また、徳之島では、約500年の歴史を持つと言われる闘牛文化が継承されています。伊仙町においては、平成26年に「牛なくさみ」として無形民俗文化財に指定されており、徳之島なくさみ館では、年間を通じて、多くの闘牛大会が開催されています。



イッサンサン



八月踊り



闘牛



棒踊り

- 農業生産基盤整備の推進 -

国営徳之島用水農業水利事業（徳之島ダム）からの一部通水が始まり、今後は台風等の塩害や渇水被害の防止と、単収の増加や品質の安定による農家の生産性と収益性の向上が期待されます。今後も、畑・農道・水路などの農業生産基盤の整備による営農条件の改善を行い、農業経営の安定・効率化を推進します。



スプリンクラーによる散水

- 農業生産額 50 億円以上の持続的な達成に向けて -

糖業振興においては、平成 29 年度より実施している夏・春植えに対する助成事業を継続し、生産拡大に努めます。園芸振興においては、「徳之島地域畑地かんがい営農ビジョン（平成 26 年）」に基づき、水利用効果の高い品目の選定と推進を行います。基幹品目のばれいしょ生産においては、「奄美農業創出支援事業」を活用し、共同利用機械の導入、労力の軽減、生産コストの削減を図り、安定した収量と品質の確保を目指します。畜産振興については、ここ数年全国的に子牛価格は、高値で推移していますが、子牛価格の高騰による意識低下を招かぬよう、子牛飼養マニュアルによる管理の徹底を行い、品質の良い粗飼料生産を推奨することで、畜産農家の育成に努めます。



ばれいしょ



マンゴー



徳之島コーヒー



セリ市

- 新規就農者の育成支援 -

農業人材育成の取り組みとして、平成 28 年度に旧徳之島農業高等学校跡地に整備した「伊仙町農業支援センター（青緑の里）」を拠点に新規就農者向けに農業知識・技術を習得するための研修会を実施し、自ら経営者として所得向上を目指す人材の育成を図ります。



伊仙町農業支援センター施設内の土壌分析室

- 企業誘致による雇用創出に向けた取り組み -

伊仙町にオフィスを構えて事業を展開する企業を募り、誘致に向けた事業を積極的に行っています。平成 29 年度に実施された「長寿と子宝のまちでサテライトオフィス事業」では、都市部から 22 社の申込みがありました。サテライトオフィスとは、企業などが本拠から離れたところに設置する遠隔勤務のためのオフィスで、伊仙町内で事業所の開設に向けて、動き出している企業もあり、これまでにない業種の雇用創出を目指します。



サテライトオフィスを実施した企業との交流会

- 自然と歴史に触れる自然の道観光振興の推進 -

伊仙町のトレイルは、平成 28 年度にコースが選定され、歩きたくなる「白い砂浜」「サンゴの石垣と 300 年ガジュマルの集落」など、自然や文化に触れあうことのできる“自然歩道”により、自然や人とのつながりを感じる心を育み、また集落の魅力にゆっくりと触れる機会を提供することを目指します。また、観光客や住民の方も楽しんで頂けるよう、自然を満喫するために必要なエコツアーガイドを育成し、世界自然遺産登録を目指す地域として、持続可能な観光地づくりに取り組みます。



トレイルコース「サンゴの石垣と 300 年ガジュマルの集落」

- 住環境整備と移住者支援の充実 -

定住促進事業として、町の中心地のみならず、各集落に町営住宅の建設を行っています。各集落へ町営住宅を設置したことで、小規模校の児童数が増加するなどの効果が生まれています。また、空き家バンクの登録物件を対象にリフォーム助成事業を実施し、移住者向けへの空き家物件の整備を行うことで、島外からの移住者を受け入れるための住環境整備を推進しています。



空き家バンク登録物件



小規模校区に建設した町営住宅

- 環境衛生活美化の推進に向けて -

クリーンセンターの老朽化に伴い、ごみ処理施設の延命化が決定しました。今後、循環型社会形成を推進するため、ごみ処理基本計画に掲げる目標を達成するとともに、住民・事業者がごみ排出者としての責任を果たし、さらに住民・事業者・行政が連携して、ごみ減量化・リサイクルを推進します。

生活排水に関する基本的な方向性として、浄化槽未設置の家庭は浄化槽設置整備事業で整備することとし、“単独処理浄化槽”を設置している家庭については、生活排水の処理を進めるため個別の事情を勘案しつつ、浄化槽への転換を指導します。



浄化槽の設置



集落のごみステーション



不法投棄の回収



不法投棄禁止の看板設置

- 子どもから、お年寄りまでみんな元気に活躍できるまち -

本町は、長寿・子宝の町として注目されており、地域力を生かした子どもから高齢者を対象に健康づくりの輪を広げています。特定健診を推進し、身体状況を把握することで、生活習慣の改善につなげ、疾病予防と糖尿病等の重症化予防に力をいれています。また、徳之島交流ひろば「ほーらい館」を拠点



徳之島地区いきいきねりんスポーツ大会

に健康運動インストラクターの育成を拡充し、地域サロンとも連携して全世代が健康増進に取り組み、食生活の改善や日常生活で運動や活動量を増やすことで、生活習慣病の発症予防と重症化予防を強化し、健康長寿の町づくりを推進し、町民の健康づくり、体力向上を兼ねた保健事業、介護予防事業、直売所「百菜」を拠点にした食育推進活動などの取り組みによって、生涯現役で活躍できる町を目指します。



放課後わくわくクラブ



保健相談



歯周病予防講座

- 地域共生社会の実現に向けた取り組み -

障がいを持った方や精神的に不安を抱えている方などが地域で安心して暮らせるよう、健康づくり支援や相談支援を行っています。平成 29 年度から軽度・中度の難聴児の補聴器助成事業をスタートさせました。日常生活における言語・知識技能の習得、コミュニケーション能力の向上が期待されます。障がい福祉サービスの向上を推進することで、障がいのある人も家族も安心して暮らせるよう、地域での支え合いの仕組みを支援する体制づくりに努めます。

地域包括支援センターにおいては、介護等の相談や自宅への訪問を通じて、健康管理や介護予防などの支援を行っています。介護予防からの地域づくりとして、地域さわかサロンを展開しており、現在 25 集落において自主的なサロンが実施されています。活動の一環として、子どもたちへ伝統文化を伝えるなど、多世代交流の機会や集落の自治公民館を拠点とした活動が増え、集落が活気付いてきています。高齢者が生涯現役で、地域で役割を担いながら、生き甲斐を感じられる活動支援を図ることで、高齢者の自立支援と要介護状態の重症化予防を図ります。今後も介護保険制度の持続可能性を維持しながら、高齢者が住み慣れた地域で生活が継続できるように医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」を深化・推進していきます。



地域づくり講演会



認知症予防講座



集落における地域さわかサロンの様子

- 出産子育て支援の充実に向けて -

出産、子育てについての主な取り組みとしては、妊婦のニーズを把握し、マタニティ教室を実施しています。妊娠期から産後においては、母子栄養食品支給を行い、必要に応じた個別相談などすべての妊婦が安心安全に出産を迎えられるような取り組みをしています。乳幼児健診の機会を利用し、子どもの成長発達について理解を深め、保育園や学校、教育委員会、

医療機関など関係機関と連携を図り、一人一人の特性や家庭環境に合わせた支援や相談体制の充実に努めます。また、医療機関・保育園などの関係機関と連携し、疾病の早期発見に努め、虫歯予防などの歯科口腔保健の充実や予防接種事業により感染症を予防し、子どもの健康を守ります。



乳幼児健診



ここにこママ&キッズ教室



歯科健診の様子

- 学校教育の充実及び教育行政の推進 -

大変厳しい本町の学力の実態を受け、「伊仙町学力向上プログラ（H30～）」を策定し、学校教育環境の充実及び学校職員の指導力向上に関わる各種研修会の充実を図っています。

児童生徒が特色ある教育を受けることができるように、スクールガードによる見守り、各種健康診断の実施、町陸上記録会、徳之島交流ひろば「ほーらい館」施設利用の送迎等、学校安全、学校保健、学校体育に係る事業を実施しています。豊かな心を育成するために、道徳教育の充実及び研修会における指導助言を行っています。

教育施設・環境の充実を図るため、社会の変化に対応するＩＴ環境や安全・衛生環境整備を推進し、児童・生徒にとって分かりやすい授業展開に寄与する電子黒板やデジタル教科書等のＩＣＴ機器の整備及び児童・生徒が使用するタブレットパソコンの整備に取り組みます。自らの力で明るい未来を切り拓いていくことができるように、学校、家庭、地域、行政が一丸となって、子どもたちの学びを支える体制を整えることで、教育の充実・発展につなげます。



阿権小学校における授業の様子



栄養バランスのとれたおいしい給食をたべる子どもたち



真剣な表情で授業を受ける児童

社会教育

- 長寿子宝の町として、子どもから高齢者までの社会教育推進を図る -

社会教育課では、子ども達の青少年健全育成として、リーダー研修会や伊仙の良さ(人・自然・文化)を知ってもらい、様々な体験活動を提供しています。また、社会教育推進のために、学校や地域との連携にも努め、町民の方を体験活動等の講師に迎え、人材活用・人材育成にも取り組んでいます。また、「いせん寺子屋」によるキャリア教育をととした人材育成を推進し、学校外での学習の場を提供します。体育・スポーツ分野において、スポーツ少年団や社会人の各種大会の開催や指導者講習会を実施し、町内のスポーツ活動推進に努めています。



子ども会リーダー研修

- 公民館活動及び読書活動の推進 -

伊仙町中央公民館では、公民館活動を通して親睦・融和を深め、心のふれあう仲間づくりに努めています。図書室では、すべての町民に親しまれ、だれもが気軽に利用できる図書室を目指しています。毎月第一土曜日に「おはなし会」の開催や夏季休業中の「図書かんもーれ」や要望校に出向いて行う「出張おはなし会」、団体での図書室利用時には要望により読み聞かせも行っています。保健センターと連携して行っているブックスタート事業では、3・4 カ月健診の際に、親子でふれあってもらうと共に、早くから本に親しんでもらえるように、絵本をプレゼントしています。



学校に出向いての出張おはなし会

- 郷土の自然・歴史・文化を継承する人材の育成 -

伊仙町歴史民俗資料館では、文化財の調査と研究を通して、郷土の自然・歴史・文化を解明し、専門の知識を有する学芸員によって、その成果を教育現場や社会教育分野に提供することで、教科書では知ることのできない郷土について学ぶ機会を提供しています。

また、伊仙町には数多くの文化財が残されていますが、これらの調査に加え、優れた文化財の選定と指定を行い、国や県などの支援事業を導入することで、文化財の整備・公開を進めています。



発掘調査

- 災害に強い安心・安全なまちづくり -

あらゆる災害から町民の生活と財産を守るために、消防・防災体制の整備を行っています。避難所の整備をはじめ、防災マップの作成・消防団による防災活動を行い、地域における危機管理意識の向上に努めています。災害時などの情報連絡手段として、「防災無線個別受信機」の整備を全世帯へ行っていきます。防災無線以外にも、携帯会社と連携した「エリアメール」や行政からの避難所等の情報連絡として登録制メール「伊仙町防災情報メール」を整備し、防災対策を推進しています。

交通安全対策として、春・秋の年 2 回交通安全週間には、町職員等による立哨交通指導の実施や新年度に合わせた各小中学校における交通安全教室・交通安全母の会等による幹線道路等での啓発活動を行っています。また、危険箇所等にガードレールの整備を行い、安心安全なまちづくりを行っています。



救急搬送時に出動する高規格救急車



消防団による消火訓練



心肺蘇生の講習



交通安全母の会による取り組み

- 町民の声を行政へ -

議会構成は、正副議長並びに総務文教厚生・経済建設の各常任委員会、議会運営委員会で構成されており、定例会は3、6、9、12月の4回、必要に応じて臨時会があります。

町議会に与えられた役割は、地方分権時代に入り多様化している時代の流れに遅れを取らないよう活発な議論を行い、議会人としての活動の場を広めていかな

ばなりません。地方創生に向けて町議会の対応や取り組みは重要な課題となっています。現在の人口減少・高齢化社会にあって町民に寄り添いながら、様々な課題に迅速に対応するとともに、小回りの利く自治体として伊仙町の地域コミュニティーの住民活動を尊重し、必要に応じて速やかに手をさしのべる事が出来る距離で、強力な支援ができる議会となるよう努力しています。また、伊仙町の財政状況を注視し、行財政改革にもしっかりと意見を述べ「監視」と「チェック」を怠ることなく、議会と町民の信頼関係をしっかり築き、町執行部と対等の独立性を堅持しながら伊仙町の更なる発展を目指しております。一方で町民から行政や議会に対し厳しい目も向けられております。議会改革には終わりはなく、今後も議員一人一人が伊仙町を良くするという職責を深く自覚し、議会活動に取り組んでまいります。



本会議における議案審議の様子



伊仙町議会議員



伊仙町議会における現地調査